発掘された京都の歴史2026

主催　京都府教育委員会
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
協賛　向日市教育委員会



掘立柱建物
（長岡宮跡 / 向日市）

仁清の名前が
刻印された
花入れ


京焼花入れ
（公家町遺跡 / 京都市）

丹後国府推定地
から「国」という
文字が書かれた土器
が出土！



墨書土器
（安国寺遺跡 / 宮津市）


脚付壺
（松田墳墓群 / 京丹後市）


青磁椀
（女布遺跡 / 舞鶴市）

関連イベント

第 161 回埋蔵文化財セミナー
「京都府内の発掘成果速報 2026」
日時｜8月22日（土）14：00〜
場所｜永守重信市民会館（向日市民会館）

展示解説
「発掘された京都の歴史 2026」
日時｜8月8日（土）・16日（日）10：30〜
場所｜向日市文化資料館

日時｜9月19日（土）14：00〜
場所｜ふるさとミュージアム山城

2026
8.8（土）▸▸ 8.30（日）
向日市文化資料館
京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の 1
開館時間｜10:00 - 18:00（入館は 17:30 まで）
休 館 日｜毎週月曜日

2026
9.19（土）▸▸ 10.4（日）
ふるさとミュージアム山城
京都府木津川市山城町上狛千両岩　（京都府立山城郷土資料館）
開館時間｜9:00 - 16:30
休 館 日｜9月24日（木）・28日（月）

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、府民のみなさまに発掘調査で出土した遺構や遺物を通じて埋蔵文化財への興味や関心をもっていただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが共催で開催しています。

今回の速報展示では、令和５・６・７年度に京都府内で実施された発掘調査などの成果を関係機関の協力を得て府内の各市町村教育委員会等所蔵の出土遺物や写真パネルなどを用いて紹介します。

展示にあたっては、より分かりやすく、親しみやすくなるように心がけました。いにしえの世界をお楽しみください。

結びにあたり、今回の展覧会を協賛いただいた向日市教育委員会をはじめ、様々なご協力を賜った関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和８年８月

京都府教育委員会

公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡　例

１．本図録は、「発掘された京都の歴史 2026」向日市文化資料館：令和８年８月８日（土）～８月 30 日（日）、ふるさとミュージアム山城：同９月 19 日（土）～ 10 月４日（日）の展示図録です。

２．展示資料は、主催者及び府内各機関が主に令和５・６・７年度に発掘調査・整理報告作業を実施した遺跡を対象としています。

３．本図録に掲載した資料は、展示品のすべてではありません。また、展示の都合により展示品と図録掲載品が異なる場合があります。

４．本展覧会は、令和８年度国宝・重要文化財等保存・活用事業費補助金（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費）を受けて実施しています。

５．本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関から御指導・御協力をいただきました。
（順不同・敬称略）　京丹後市教育委員会、宮津市教育委員会、舞鶴市、京都市、京都市考古資料館、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター、長岡京市教育委員会、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター、宇治市教育委員会、城陽市教育委員会、京田辺市、同志社大学

６．本図録の掲載写真は、主催者撮影のもののほかは、上記の機関から提供を受けたものです。

発掘された京都の歴史 2026

旧石器時代 稚児野遺跡 福知山市夜久野町井田 （公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

稚児野遺跡は由良川の支流牧川を見下ろす標高 100 ｍの台地上に位置します。令和６年度に実施した第６次調査は、石器集中部が見つかった第２次調査の調査区の南東側で行いました。旧石器時代の遺構面の多くは失われていましたが、約３万年前の火山灰層と、その直下にある石器が出土する地層を確認しました。サヌカイト製の石器や刃部磨製石斧などからなる石器集中部が残されており、379 点の石器が出土しました。この成果から、第２次調査で確認した石器集中部がさらに南側へ広がっていたことがわかりました。



調査区全景（西から）



約３万年前の石器

弥生時代 フキ岡遺跡 京丹後市弥栄町溝谷 （公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

フキ岡遺跡は、竹野川右岸の平野部から 30 ｍ程高い丘陵緩斜面の奥まった場所に位置します。今回の調査でみつかった一辺約５ｍの隅丸方形の竪穴住居は遺存状態が良く、屋根をささえる主柱穴や中央炉、南辺に貯蔵穴と周壁溝を備え、凹線文を施した弥生時代中期後葉の土器が出土しました。中央炉には炭化物が残るのみで長く使用した痕跡はありません。周辺では円形の竪穴住居をもう１棟検出していますが、集落を形成した様子が確認されず、建て替えられた建物と考えられます。同様の例は、対岸のオテジ谷遺跡でもみられ、弥生時代の「ポツンと一軒家」がどのような目的で建てられたのか注目されます。



調査区全景（西から）



２基の竪穴住居（北から）

弥生時代

千代川（ちよかわ）遺跡　第38次　N地区

亀岡市千代川町千原
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査



N 地区調査地全景（南西から）

千代川遺跡は、大堰川右岸に位置する東西 1.4 ㎞、南北 1.9 ㎞の広大な遺跡です。これまで縄文時代から中世に至る多数の遺構と遺物がみつかっています。遺跡の中央部に近い第 38 次調査Ｎ地区では、弥生時代中期後葉から後期にかけての方形と円形の竪穴住居などから構成される３つの居住域と、方形周溝墓群と木棺墓群からなる２つの墓域を確認しました。その広がりは南北 180 ｍ以上、東西 120 ｍ以上を測り、規模の大きな集落であったことがわかりました。

河内や近江で製作された土器が出土したことから他地域と交流を行っていたことや、地元の石材を用いた石鏃や石包丁などの磨製石器の未成品が多く出土し、石器の製作を行っていたこともわかりました。

竪穴住居などの遺構も、構造がよくわかる状況で残っていたため、弥生時代の集落のあり方を考える上で、貴重な調査成果となりました。



各種磨製石器
左：磨製石鏃の製作工程を示す資料　中：磨製石剣　右：石包丁の未製品と製品

弥生時代

松田（まつだ）墳墓群（松田古墳群B支群）

京丹後市大宮町河辺
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査



調査地全景（北から）

松田墳墓群（松田古墳群）は、丹後半島最大の平野部である中郡盆地の東側に位置します。丹後半島最長の河川である竹野川の支流の大谷川の左岸尾根の標高約 60 ～ 95 m上に立地します。松田墳墓群（松田古墳群）には 59 基の弥生時代の台状墓や古墳があり、その立地から５つの支群に分けられています。これまでにＢ支群の 17 基の台状墓と４基の古墳、Ｃ支群の１基の古墳と 52 基の埋葬施設を調査しました。出土遺物には、墓壙（ぼこう）上の祭祀（さいし）に使われたと考えられる土器群や管玉、勾玉、鉄製品などの副葬品、葬送儀礼（そうそうぎれい）に関連すると考えられる銅鏃（どうぞく）や石杵（いしぎね）が出土しました。

台状墓は、一つの平坦面に複数の埋葬施設をもつ複数埋葬から、次第に埋葬される人物が選別され、一つの平坦面に一つの埋葬施設をもつ単数埋葬への変化が見られます。

今回の調査では、弥生時代から古墳時代にかけて被葬者と葬送儀礼の変化を解明するうえで貴重な知見を得ました。



供えられた当時の状況をよく残す出土状況（北東から）



埋納された銅鏃



供えられた弥生土器

古墳時代　寺戸大塚古墳（国史跡乙訓古墳群）第15次

向日市寺戸町
（公財）向日市埋蔵文化財センター調査

寺戸大塚古墳は桂川右岸の向日丘陵上に位置する全長98ｍ、後円部径57ｍ、後円部高18ｍを測る古墳時代前期の前方後円墳です。

令和３年度から範囲確認調査が実施され、令和６年度の第15次調査では、前方部が柄鏡形ではなく、くびれ部から「ハ」の字形に広がることと、第一段斜面は前方部前面側が高く造られていること、そして前方部東側斜面の第一段平坦面に「周辺埋葬」が設けられていることがわかりました。





右上：第１調査区（前方部前面）全景（南から）
（(公財）向日市埋蔵文化財センター提供）

右下：前方部東側斜面上段の墳丘遺存状況
（(公財）向日市埋蔵文化財センター提供）

古墳時代　天理山3号墳（国史跡綴喜古墳群）

京田辺市薪　京田辺市調査



前方部北側斜面（北から）（京田辺市提供）

天理山古墳群は国指定名勝の方丈庭園を有する酬恩庵一休寺の裏山に所在する前方後円墳２基と前方後方墳１基で構成される古墳時代前期の古墳群で、国史跡綴喜古墳群を構成する古墳群の一つです。令和６年度調査は、３号墳の後円部２か所と前方部端部の調査が行われ、全長が82ｍで、後円部、前方部ともに３段築成で、葺石・埴輪が設置されていることが判明しました。また、令和７年度調査は３号墳の前方部斜面の調査が行われ、埴輪の設置状況などが明らかになるとともに、前方部の幅が想定よりも狭いことがわかりました。



前方部北側中段テラス葺石・埴輪出土状況
（京田辺市提供）

古墳時代　銚子山古墳（国史跡銚子山古墳　第一・二古墳）

京丹後市網野町網野
京丹後市教育委員会





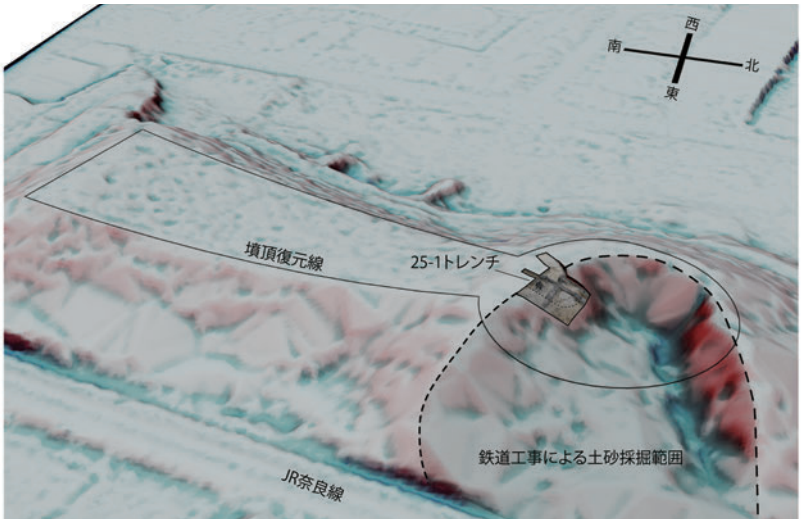
左：整備後の網野銚子山古墳（南東から）
上：葺石と埴輪列の復元状況
（京丹後市教育委員会提供）

網野銚子山古墳は日本海沿岸部最大の前方後円墳です。日本海に流れる福田川の河口域の台地上に位置します。古墳からは、当時、日本海との間に広がっていた潟湖を見下ろすことができました。平成27年度から始まった史跡整備事業が令和７年４月に終了し、巨大な前方後円墳の構造が一目でわかるように再現した史跡公園としてオープンしました。前方部の一部に葺石が施され、その上には円筒埴輪が整然と並んでおり、築造時の姿を彷彿とさせます。網野銚子山古墳は旧網野小学校校歌でも歌われた、地域のシンボル的な存在として親しまれてきた古墳です。今回の整備事業を経てさらに多くの人が訪れるかけがえのない文化財として親しまれていくことが期待されます。

古墳時代　久津川車塚古墳（国史跡久津川古墳群）　城陽市平川車塚　城陽市教育委員会調査

久津川車塚古墳は、二重の堀（周濠）を備えた京都府内最大級の前方後円墳です（墳丘の全長約180ｍ）。近世文書に「車塚」の名がみえ、明治時代の奈良鉄道建設時、後円部が深く削られた際、後円部のほぼ中央部で、巨大な長持形石棺がみつかり、銅鏡を始め夥しい量の副葬品が姿を現わしました。一報を受けた京都帝国大学が、埋葬施設の状況を記録するとともに、一部散逸していた副葬品を総括した報告書、『久津川古墳研究』（大正９年刊）を刊行しました。近年の調査で墳丘や周濠の実態が解明されつつあり、令和６年度の中心埋葬施設跡の再調査（25-1トレンチ）により、埴輪や石　内に敷かれた玉石、小口小石室の石材などが発見されました。





上：25-1トレンチ全景（北から）
下：25-1トレンチと後円部の位置関係
（写真等は城陽市教育委員会提供）

古墳時代　千代川遺跡　第37次　A地区

亀岡市千代川町北ノ庄
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

第37次調査のＡ５区の谷部では、古墳時代の槽付き木樋を含む２基の木樋が見つかりました。槽付き木樋（木樋２）の上流には、Ｖ字形の切り込みをもつ堰板が置かれ、谷内を流れる水をいったん堰き止めていました。そして、堰き止められた水の上澄みが木樋と一体に彫られた槽へ流し込まれていました。





水に様々な願いを込めた古墳時代の人びとの息づかいが感じられる、貴重な発掘調査成果です。

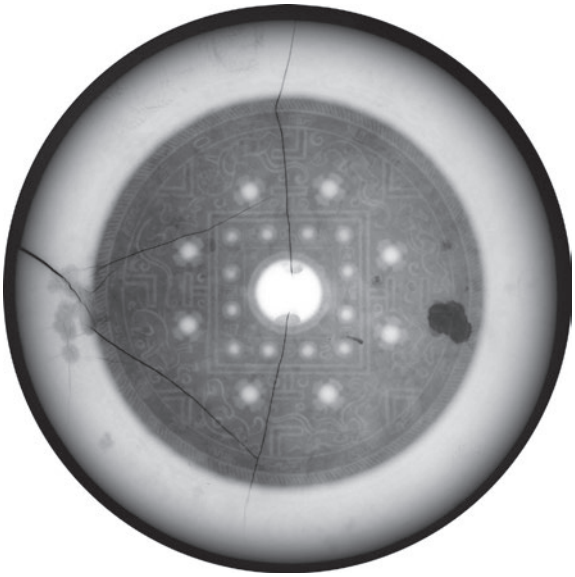
上：遺構検出状況（西から・手前木樋１）
左：槽付き木樋２検出状況

古墳時代　上安久1号墳

舞鶴市上安久　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

上安久１号墳は、西舞鶴の伊佐津川河口右岸の標高約 50 ｍの尾根上に立地する円墳です。墳丘の中央付近には長さ 4.7 ｍ・幅 2.3 ｍの墓壙が掘られ、内部に長大な組み合わせ式木棺を確認しました。木棺の内部は３つに区画され、１世紀に作られた中国製の銅鏡（方格規矩鏡）、ガラス玉、鉄製の馬具・農耕具・武具などの副葬品が出土しました。棺外には鉄鉾が置かれ、墳丘上からは破砕された須恵器が出土しました。５世紀前半の海に臨む地域首長の姿を考える上で、貴重な資料となりました。





上：上安久１号墳全景（南から）
右：上安久１号墳出土の方格規矩鏡レントゲン写真
（大手前大学提供）

古墳時代　千代川遺跡　第37次　P地区

亀岡市千代川町千原
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

千代川遺跡の北東部に位置するＰ地区からは、弥生時代中期から飛鳥時代にかけての遺構・遺物が出土しました。弥生時代後期の竪穴住居は平面形がいびつな多角形で、弥生時代の住居から古墳時代の住居に変化する過渡期に営まれたものと考えられます。

この地域では、古墳時代後期に入ると集落が大きくなり、竈をもつ方形の竪穴住居が次々と建てられるようになります。Ｐ地区からは大小合わせて 10 基の住居跡が検出され、中には建て替えられて他と重なった状態になっているものも確認されました。

近接する大堰川の水利や地域開発、さらには北西 800 ｍに所在する拝田古墳群との関係を検討するうえで重要な手がかりになる調査成果です。



竈をもつ竪穴住居群（西から）



竪穴住居から出土した土器

古墳時代　井ノ内遺跡

長岡京市井ノ内
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査





左：竈をもつ複数の竪穴住居
上：竪穴住居から出土した遺物

井ノ内遺跡は長岡京内の北西部の標高 47 ｍの扇状地上に位置します。調査では古墳時代後期の竪穴住居、長岡京期の溝、中世以降の柱穴を検出しています。

古墳時代の竪穴住居は６基を検出しています。同じ古墳時代の包含層からは土馬や製塩土器が出土しています。出土遺物が多く、竈の痕跡と考えられる焼土も複数確認しました。竪穴住居の遺存状態が悪いことを考えると、もっとたくさんの住居が営まれていたことが考えられます。

井ノ内遺跡の北東部には前方後円墳である井ノ内稲荷塚古墳や井ノ内車塚古墳などがあります。今回みつかった竪穴住居からなる集落跡は古墳に埋葬された首長を支えた集落の一つと考えられます。

古墳時代　芝山（しばやま）古墳群　Ⅰ支群－10号墳

城陽市富野
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

芝山古墳群は、山城盆地中央東側に広がる芝山丘陵の西端に立地しています。今回の調査地は、芝山遺跡の南西端に位置する丘陵上に位置します。調査では２基の円墳（Ⅰ支群10号墳と同23号墳）を検出しました。

10号墳は直径16ｍ、23号墳は13.5ｍを測ります。埋葬施設は10号墳に２基、23号墳に１基ありました。10号墳第１主体部は墓壙の規模が大きく、棺内から鉄刀１振り、管玉、土玉、副室から須恵器が10点出土しました。この第１主体部に一部重なって第２主体部が営まれており、棺内から須恵器２点が出土しました。

また、23号墳との間に土壙墓１基が営まれていました。これら３つの埋葬施設は出土した須恵器から６世紀中頃に営まれたと考えられます。



10号墳第１主体部遺物出土状況



10号墳第１主体部出土遺物

古墳時代　井ノ内稲荷（いのうちいなり）塚古墳（国史跡乙訓古墳群）

長岡京市井ノ内
（公財）長岡京市埋蔵文化財センター調査

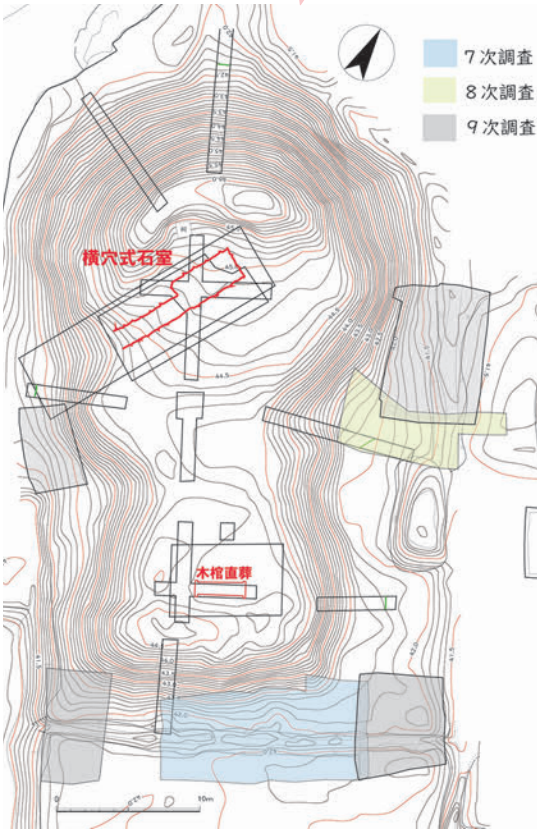
井ノ内稲荷塚古墳は丘陵上に位置する古墳時代後期の古墳です。令和５年度から長岡京市によって墳丘裾や周溝を中心に古墳の規模や範囲を解明する目的で調査が行われてきました。その結果、井ノ内稲荷塚古墳は後円部南東側に張り出し状部を設けること、浅い周溝を巡らせるとともに前方部端などの周溝が途切れて陸橋状になることが明らかになりました。とくに周溝の前方部前面中央に設けられた陸橋は古墳の主軸に当たるため注目されます。

また、前方部南側からは青磁椀を副葬した中世墓がみつかりました。





右上：須恵器
右下：青磁椀
（長岡京市教育委員会所蔵）



調査地位置関係図

古墳時代

法貴古墳群（ほうき） 第3次

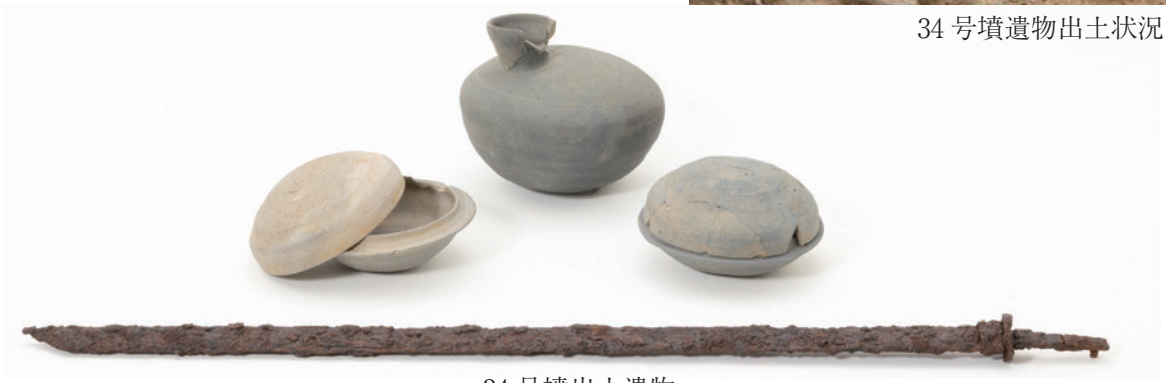
亀岡市曽我部町法貴
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

法貴古墳群は、亀岡盆地南西部霊山ヶ岳の山麓に６世紀中頃から７世紀中頃に造られた、横穴式石室を埋葬施設とする 67 基からなる群集墳です。令和６年度の第３次調査で、直径８ｍの円墳である 34 号墳が確認されました。全長約 4.3 ｍ、幅約 0.9 ｍの無袖の横穴式石室から鞘尻金具（さやじりかなぐ）もつ鞘に納められた鉄刀が７世紀前半の須恵器とともに出土しました。

この古墳群では、石垣状の列石をもつ２段築成の７世紀中頃の方墳（24 号墳）も造られました。



34 号墳遺物出土状況



34 号墳出土遺物

古墳時代

墓の平（はかひら）1号墳

井手町多賀　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査



石室内完掘状況

墓の平古墳群は木津川右岸の多賀集落を見下ろす丘陵上に位置します。１号墳は全長 6.26 ｍの横穴式石室をもつ古墳で、遺体を納める部屋（玄室）からは床に置かれた大きな石や鉄の釘がみつかりました。木製の棺などが使われていたと考えられます。石室内の土器の年代は、７世紀前半～７世紀末までと時間幅がありました。追加の埋葬や儀式などで、数十年にわたり石室が使われていたのでしょう。また、16 世紀末～ 17 世紀前半頃に古墳は壊されてしまいますが、再び土が盛られ直径 12 ｍ、高さ約 1.7 ｍの“塚”へと姿を変えます。塚の周辺は近世の墓地として使われました。



出土須恵器

飛鳥時代

加茂塚穴（かもつかあな）1号墳

木津川市加茂町南加茂台　同志社大学調査

加茂塚穴古墳群は、木津川支流・赤田川右岸の段丘上に立地します。１号墳は、古くから存在が知られ、一辺 21 m、高さ 4.5 m を測る６世紀後半頃の方墳とさていました。令和２年から５年にかけて実施された発掘調査の結果、７世紀前半に造られた東西約 20.5 m、南北約 20.0 m、高さ 6.4 m の隅丸の方墳であることがわかりました。石室の羨道部を含めた全長は 6.1 m、玄室長 3.6 m、玄室幅 2.0 m、天井高 2.2 m を測ります。石室床面は、中近世の再利用に際して大きく失われていました。築造年代と構造から倭王権に近い首長クラスが埋葬された終末期古墳と考えられます。





左：石室内
右：開口部
（写真提供同志社大学）

飛鳥時代

北白川（きたしらかわ）廃寺

京都市左京区北白川東瀬ノ内町　京都市文化財保護課調査

北白川廃寺は、京都盆地北東部に立地する飛鳥時代から平安時代にかけての寺院跡です。令和６年度に実施された発掘調査では、南北方向の溝や総柱建物などがみつかり、これまで不明であった寺域西端の状況が初めて明らかになりました。溝は７世紀半ばから９世紀まで繰り返し掘り直されており、数多くの瓦が出土しています。

今まで出土していた山田寺式軒丸瓦よりも古いと考えられる「素弁十葉蓮華文軒丸瓦（そべんじゅうようれんげもんのきまるがわら）」が出土し、寺院の創建時期を再検討する上で重要な成果となりました。



寺域の西を限る溝と建物跡



８世紀前半に廃棄された瓦

飛鳥時代　カンジョガキ遺跡

京丹後市大宮町周枳
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

カンジョガキ遺跡は竹野川右岸の丘陵部から谷部にかけて立地する遺跡で、過去４年間の調査で古墳時代後期末から飛鳥時代にかけての竪穴住居・掘立柱建物・溝と７世紀初頭から８世紀前半の横穴墓が検出されています。遺跡の南側丘陵裾部で実施した第５次調査では、建物遺構は大きく削平されていましたが、竪穴住居、溝などを検出しました。丘陵裾部の溝内からは、７世紀の土師器杯・壺・甕などが複数個体の移動式竈（かまど）とともに出土しました。



溝内から出土した竈片と土器



丘陵裾部の溝内の遺物出土状況

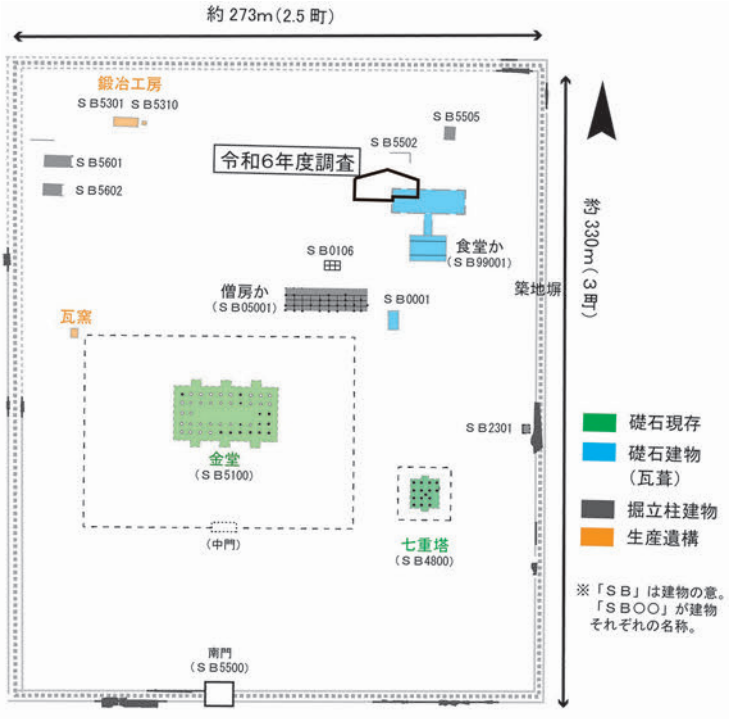
奈良時代　山城国分寺跡（国特別史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡））

木津川市加茂町例幣
京都府教育委員会調査

令和６年度の調査で、礎石建物１棟を検出しました。聖武天皇が営んだ恭仁宮（740 ～ 744 年）の後に建立された山城国分寺の建物と考えられ、平成 11 年度に見つかった礎石建物（そせきたてもの）と廊下で連結すると考えられます。これまでの成果から、礎石建物は東西約 38.1 m、南北約 12.0 m の大規模な建物に復元できます。礎石建物は、修行僧が食事、仏教儀礼をおこなう「食堂院（じきどういん）」に関連すると考えられます。「食堂院」がみつかっている国分寺は山城国分寺に限られ、天皇の宮を由縁にもつ唯一の国分寺として、特別な寺院であったことがわかります。



礎石建物と建物を囲む溝（北西から）



山城国分寺跡全体図

長岡京期 長岡京跡（ながおかきょう） 宮第545・549次

向日市寺戸町

（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

調査地は、向日丘陵を西に臨む長岡宮内の北西域（西辺官衙（かんが）・北西官衙）にあたり、宮域西辺部の構造を知る上で重要な地点です。

調査地西辺部で東西方向と南北方向の溝を検出し、宮城内に北一条条間南小路延長道路が通っていたことがわかりました。道路が屈曲する付近から、紐で束ねた銭「緡銭（さしぜに）」が宮城内で初めて出土しました。

調査地東側では、梁行（はりゆき）三間（7.6 m）、桁行（けたゆき）二十間（55.6 m）に及ぶ大型掘立柱建物がみつかりました。建物の柱穴は、一般的なサイズを大きく上回る一辺 1.0 ～ 1.4 m、深さ 0.8 ～ 1.9 m もありました。これは、長岡宮の内裏正殿などと同規模の柱穴で、桁行二十間は長岡京内で最長の建物となります。

また、古墳時代中頃の円墳３基もみつかりました。いずれも墳丘や埋葬施設は削平されていました。長岡宮造営の際に周辺一帯は大規模な土地開発がされたようで、周辺からは埴輪などもみつかっています。



屈曲する宮城内道路（南西から）



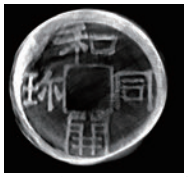
難波宮（なにわのみや）から運ばれた軒瓦



宮城内道路周辺から出土した緡銭
（和同開珎（わどうかいちん）、萬年通寶（まんねんつうほう）、神功開寶（じんごうかいほう））



長岡京最大・最長の大型掘立柱建物（北から）



和同開珎の CT 画像



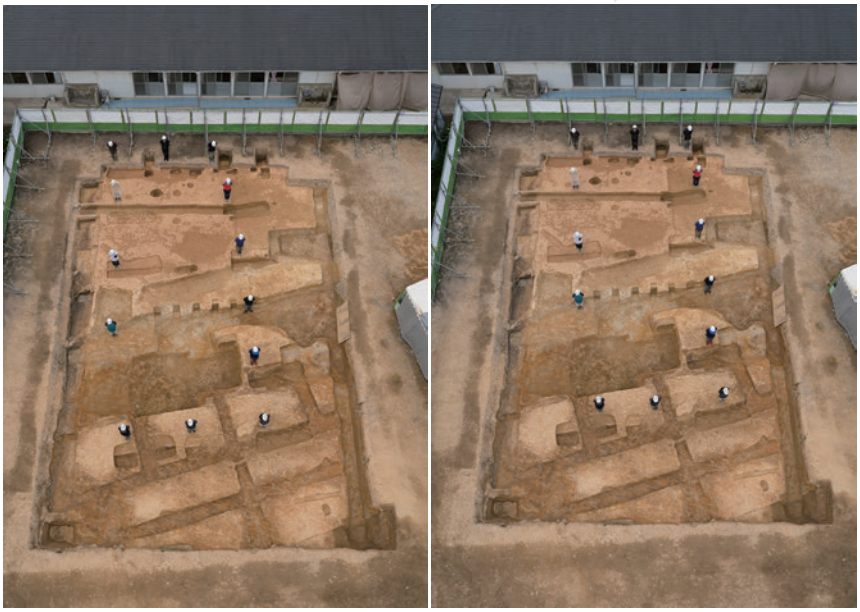
建物の柱穴断面（人物比較）

長岡京期 長岡京跡（ながおかきょう） 宮第552次

向日市向日町 （公財）向日市埋蔵文化財センター調査

調査地は、向日丘陵の先端部にあたり、南側には高さ約3.5ｍの段丘崖があり、第一次内裏「西宮」と推定される区画の西側に位置します。

調査では、南北５間、東西２間の大型掘立柱建物１棟がみつかりました。建物は、柱間10尺（３ｍ）等間と長岡京期では最上位の格式をもちます。この建物は、一度解体され、1.5ｍ（５尺）東に平行移動した場所で新たに同規模の建物を建て替えたことがわかっています。同規模の建物を近接した場所に建て替える例は珍しく、何らかの事情で計画を変更したものと考えられます。



建物跡（写真左から右への建て替え）
（写真提供 （公財）向日市埋蔵文化財センター）

長岡京期 長岡京跡（ながおかきょう） 左京第673次

長岡京市馬場
（公財）長岡京市埋蔵文化財センター調査

調査地は長岡京の左京域のほぼ中央、四条大路と五条大路の中間、東二坊大路に近いところに位置します。東二坊坊間東小路東側溝を南北50ｍにわたって検出し、東側の宅地（左京五条二坊十四町）が調査されました。宅地は50ｍ以上に及ぶ11尺等間の東西柵と一部検出された南北柵により、４分割されていたと想定されます。

南東隅の宅地には建物内に甕を据えた東西棟があり、柱穴内からは、緑釉陶器の甑（こしき）、「神五」の刻書のある漆椀、薬壺（やっこ）、墨書土器などが出土し、東二坊坊間東小路東側溝からは花や魚を線刻した筒状の須恵器が出土しました。

（写真提供及び遺物所蔵　長岡京市教育委員会）



宅地を四等分する柵列と建物跡（手前は東二坊坊間東小路東側溝）





筒状の須恵器に描かれた花（左）と魚（右）



緑釉陶器の甑

長岡京期　溝路遺跡

京都市南区久世殿城町　（公財）京都市埋蔵文化財研究所調査

溝路遺跡の調査では長岡京の北限とされる北京極大路よりも北側で、京内から連続する条坊側溝や建物跡などがみつかりました。見つかった条坊側溝は、長岡京東二坊坊間小路の東側溝の北延長にあたりますが、西側溝は確認できませんでした。この東側溝に直交して東西方向の溝が２条みつかっています。２条の溝の間の幅は約９ｍで、小路規模の道路と考えられ、ちょうど北京極大路よりも１町分（約120 ｍ）北に位置します。東側溝の東側、東西道路の北側では掘立柱建物４棟や区画溝などが確認されました。溝路遺跡の調査成果は、長岡京の北京極大路よりも北側に長岡京の条坊遺構が広がることを改めて確認しました。長岡京の本来の姿を検討するうえで重要な調査成果となりました。

（写真提供　（公財）京都市埋蔵文化財研究所、遺物所蔵　京都市考古資料館）



出土した長岡京期の瓦と土器



調査区全景（北から）

平安時代　平安京跡　平安宮内裏内郭回廊

京都市下京区千本東入田中町
京都市文化財保護課調査

平安時代　平安京跡　右京一条三坊十三町

京都市右京区花園藪ノ下町
地域文化財研究所調査

内裏内郭回廊と外郭塀に挟まれた空間地での発掘調査では、平安時代中期の火災処理に伴う整地土と土坑が検出されました。出土した土器の年代から天徳４（960）年におこった火事に関わる遺構と考えられます。内裏はたびたび火災に見舞われたと記録されていますが、それを裏付けるものです。

平安京跡右京一条三坊十三町の調査では、恵止利小路に面する築地の内側の宅地内から平安時代前期の井戸（９世紀前半から中頃）や中期の土器埋納遺構（10 世紀）がみつかりました。　（遺物所蔵　京都市）





上：平安宮内から出土した火事で焼けた瓦
下：平安京右京一条三坊十三町出土の土器

平安時代　安国寺遺跡

宮津市中野　宮津市教育委員会調査



巨大な柱穴列



軒瓦と緡銭として出土した銅銭

安国寺遺跡は、天橋立の北西側にある遺跡で、丹後国の国府の候補地とされています。調査では、隅丸方形の直径0.8mから1m程の柱穴を複数確認しました。これらの遺構は、国府に関連する施設の一部であると考えられます。調査では灰釉陶器や中国産の陶磁器、瓦のほか、墨書土器や風字硯などの官衙的な性格が伺える遺物も出土しました。

（写真提供及び遺物所蔵　宮津市教育委員会）



「國」の墨書がある土師器

平安時代　小中田遺跡

京丹後市大宮町河辺　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

小中田遺跡は、竹野川右岸の丘陵裾部に位置します。扇形に開く谷部から飛鳥時代の竪穴住居跡や湧水を利用した流路、平安時代の土器などの生活痕跡が確認されました。

谷部の飛鳥時代の流路からは多量の桃の種が出土し、水辺で祭祀が行われていたようです。また調査地の南東側からは、平安時代の土器がまとまって出土する窪みがみつかりました。この遺構は当時、不用になった土器を廃棄したあととみられます。これらは、古代社会における地域の土地の利用方法や生活様式を知ることのできる貴重な資料です。





上：調査区全景（北西から）

下：窪みから出土した須恵器・土師器・緑釉陶器

中世 女布（にょう）遺跡 第9・11・13次調査　舞鶴市女布　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査 京都府教育委員会調査

女布遺跡は、弥生時代から中世まで人びとの営みが続いた遺跡です。第13次調査では、鎌倉時代の木棺墓を1基検出しました。木棺の底板がほぼ完全な形で残っており、これほど良好に残る例は全国的にも珍しく、中世の棺の構造を知る貴重な資料です。棺の北西側には、中国・龍泉（りゅうせん）窯でつくられた青磁椀が1点副葬されていました。口縁部が欠け、器にはひびが入っていますが、他地域の墓の副葬品にも同様の例があり、意図的に割ったものと考えられます。また、第9次調査では、白磁椀と皿を副葬した墓がみつかっており、第11次調査では墓に副葬されたと考えられる和鏡が出土しています。





木棺検出状況



第11次調査出土の和鏡（上）と
第13次調査出土の青磁椀（下）

中世 宇治市街遺跡（うじしがい） 第35・36・40次　宇治市宇治字文字　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査





左：居館をめぐる堀
上：井戸出土土器

宇治市街遺跡は宇治川を挟み東西約1,500m、南北約500mに広がる中世都市遺跡です。第35・36・40次調査では宇治橋通北西側の低位段丘縁辺部で南北幅は7m以上、東西幅は約5.5m、深さは2.2mから2.5mの規模のL字形の堀がみつかりました。平安時代後期の居館をめぐる堀の一部と考えられます。堀の西側には東西2.6m、南北2.9mの隅丸方形の掘形をもつ井戸があり、埋め戻した土の中から土師器皿や瓦器椀などが出土しました。

中世　宇治市街遺跡（うじしがい）　第39次

宇治市宇治壱番　宇治市歴史まちづくり推進課調査

宇治橋通り沿いで発掘調査が行われ平安時代から江戸時代の遺構が見つかりました。1辺3.6mの方形掘形をもつ井戸は、宇治市街遺跡において最大級の井戸で、平安時代後期の貴族の別業に関連するものと考えられます。井戸の掘形が、第35・36・40次調査でみつかった居館の堀と同様に宇治橋通に平行する方向に掘られていることから、宇治橋通が平安時代後期に成立していた可能性が考えられます。出土遺物には淀川水系をさかのぼって来たものと大和からもたらされたものがあります。

（写真提供及び遺物所蔵　宇治市教育委員会）



巨大な井戸



調査地全景



井戸と土坑から出土した土器

中世　石見城跡（いわみじょう）

京都市西京区大原野石見町　京都市文化財保護課調査



内郭部全景

室町時代、乙訓の地は、「西岡（にしのおか）」と呼ばれ、「西岡被官衆」と称される複数の小領主が連帯して治めていたとされています。「野田弾正忠泰忠軍忠状」には文明2（1470）年に「石見館を焼いた」という記述が残されていましたが、その所在は不明でした。近年の道路事業の実施に伴い、旧状をよくとどめた城館跡の存在が明らかになり、範囲確認を目的に5か年にわたる調査が実施されました。調査の結果、土塁や堀の構造が明らかになり、鎌倉時代から室町時代にかけて存続した城館跡と判明しました。

（写真提供及び遺物所蔵京都市）



石見城跡出土の中世土器

近世 田辺城跡（たなべじょう） 第34次　舞鶴市北田辺　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

田辺城跡は、戦国時代末期に築かれた舞鶴湾に臨む平城です。第34次調査では、戦国時代から明治時代にかけての武家屋敷や道路などの遺構が重なってみつかりました。

調査地は三の丸にあたり、細川氏・京極（きょうごく）氏・牧野氏の歴代城主の時代ごとの生活のあとが確認できました。調査地は、上級武士の屋敷地であり、建物の礎石や排水溝に加え、竹筒と桶（おけ）を組み合わせた「上水施設」や、庭園の池の跡なども見つかりました。これらの成果は、当時の城内の区画割りや、湧き水を生活に利用していた武士たちの暮らしぶりを知るための重要な手がかりとなっています。



調査地全景（南東から）



出土遺物

近世 田辺城跡 第35次　舞鶴市北田辺　舞鶴市調査

田辺城跡第34次調査の西隣で行われた第35次発掘調査では、安土桃山時代から江戸時代にかけて築かれた堀や石垣、排水遺構が確認されました。

調査地は、城の正門にあたる「大手門」の近くに位置しています。調査の結果、４段残る東西方向の石垣と大手門から続く南北方向の石垣の入隅部分が確認されました。東西方向の石垣は、下側２石分が京極期に築かれたもので、上部は牧野期に修築されたものと考えられます。





上：入隅近くに設けられた排水口（南西から）
下：石垣全景（南東から）
（写真提供舞鶴市）

近世　白河街区跡（しらかわがいく）・彦根藩邸跡（ひこねはんてい）

京都市左京区聖護院円頓美町　古代文化調査会調査

白河街区・彦根藩邸跡では平安時代後期の地業跡と江戸時代末期から明治時代にかけての藩邸に関連する遺構、遺物が見つかりました。

この地に藩邸が造られるのは絵図から文久２（1862）年ごろと考えられ、彦根藩邸にあたります。調査では佐伯屋敷と彦根屋敷の境、彦根藩邸の園地、礎石建物など多数の遺構がみつかりました。

京都で大名屋敷の園地が見つかることは前例がなく、大変貴重な成果です。また、藩邸から出土した遺物には全国各地から運ばれてきた製品のみならず、中国産の染付も出土しています。

（写真提供及び遺物所蔵　京都市）





上：みつかった園地（北から）
下：出土遺物

近世　公家町（くげまち）遺跡

京都市上京区寺町通今出川下る染殿町　安西工業株式会社調査

公家町遺跡では、弥生時代から明治時代に至るまでの遺構、遺物が確認されています。また調査地には公家が住まいを構えており、東に六条家、西に四辻家の屋敷が位置していたと推定されます。江戸時代の遺物は多様で、「仁清（にんせい）」銘の入った花瓶や動物をかたどった水滴、公家町以外ではほぼ見られない土師器皿の蓋や宮中で使用された菊御紋付き染付の食器が出土しています。この調査では公家町ならではの大変貴重な遺物が出土しました。

（写真提供及び遺物所蔵　京都市）



調査地全景（南西から）



菊御紋付き染付の皿

出　品　目　録

時代			遺跡名	所在地	展示遺物	所有者（保管者）
先史	旧石器	1	稚児野遺跡	福知山市	ナイフ形石器ほか6点	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	弥生	2	フキ岡遺跡	京丹後市	弥生土器2	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		3	千代川遺跡第38次N地区	亀岡市	弥生土器6、磨製石器15、砥石1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		4	松田墳墓群（松田古墳群B支群）	京丹後市	弥生土器8、銅鏃	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	古　墳	5	寺戸大塚古墳	向日市	パネル展示	向日市埋蔵文化財センター
		6	天理山3号墳	京田辺市	パネル展示	京田辺市
		7	網野銚子山古墳	京丹後市	パネル展示	京丹後市教育委員会
		8	久津川車塚古墳	城陽市	パネル展示	城陽市教育委員会
		9	千代川遺跡第37次A地区	亀岡市	パネル展示	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		10	上安久1号墳	舞鶴市	パネル展示	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		11	千代川遺跡第37次P地区	亀岡市	土師器6、須恵器4	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		12	井ノ内遺跡	長岡京市	須恵器4、紡錘車1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		13	芝山古墳群Ⅰ支群10号墳	城陽市	須恵器6、管玉9、土玉96	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		14	井ノ内稲荷塚古墳	長岡京市	須恵器5、青磁2	長岡京市教育委員会
		15	法貴古墳群第3次	亀岡市	須恵器5、鉄刀1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		16	墓の平1号墳	井手町	須恵器8	京都府埋蔵文化財調査研究センター
古代	飛　鳥	17	加茂塚穴1号墳	木津川市	パネル展示	同志社大学
		18	北白川廃寺	京都市	瓦6	京都市
		19	カンジョガキ遺跡	京丹後市	土師器8、須恵器2	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	奈　良	20	山城国分寺跡	木津川市	パネル展示	京都府教育委員会
	長岡京	21	長岡京跡宮第545・549次	向日市	土師器3、須恵器4、瓦4、緡銭1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		22	長岡京跡宮第552次	向日市	パネル展示	向日市埋蔵文化財センター
		23	長岡京跡左京第673次	長岡京市	土師器4、須恵器3、緑釉陶器1	長岡京市教育委員会
		24	溝路遺跡	京都市	土師器2、須恵器3、瓦2	京都市考古資料館
	平　安	25	平安京跡平安宮内裏内郭回廊	京都市	瓦4	京都市
		26	平安京跡右京一条三坊十三町	京都市	土師器4、須恵器2、緑釉陶器2	京都市
		27	安国寺遺跡	宮津市	灰釉陶器1、墨書土器3、瓦1、銅銭7	宮津市
		28	小中田遺跡	京丹後市	土師器3、須恵器3、緑釉陶器1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
中世	鎌　倉	29	女布遺跡第9・11・13次	舞鶴市	青磁椀1 白磁椀1、白磁皿4、銅鏡1	京都府教育委員会 京都府埋蔵文化財調査研究センター
		30	宇治市街遺跡第35・36・40次	宇治市	土師器4、瓦器1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		31	宇治市街遺跡第39次	宇治市	土師器3、瓦器4、瓦質土器2、青磁1	宇治市歴史まちづくり推進課
	鎌倉ー室町	32	石見城跡	京都市	土師器1、瓦器1、陶器4	京都市
近世	江　戸	33	田辺城跡第34次	舞鶴市	陶器5、磁器2、硯1、小柄1、キセル1	京都府埋蔵文化財調査研究センター
		34	田辺城跡第35次	舞鶴市	パネル展示	舞鶴市
		35	白河街区跡・彦根藩邸跡	京都市	陶器1、磁器6	京都市
		36	公家町遺跡	京都市	陶器4、磁器3、かんざし2	京都市

速報展示遺跡位置図



1. 網野銚子山古墳
2. フキ岡遺跡
3. 松田墳墓群（松田古墳群B支群）
4. 小中田遺跡
5. カンジョガキ遺跡
6. 安国寺遺跡
7. 上安久１号墳
8. 田辺城跡第34次
9. 田辺城跡第35次
10. 女布遺跡第11・13次
11. 稚児野遺跡
12. 千代川遺跡第37次
13. 千代川遺跡第38次
14. 法貴古墳群
15. 北白川廃寺
16. 公家町遺跡
17. 白河街区跡・彦根藩邸跡
18. 平安京跡平安宮内裏内郭回廊
19. 平安京跡右京一条三坊十三町
20. 寺戸大塚古墳
21. 溝路遺跡
22. 石見城跡
23. 井ノ内遺跡
24. 井ノ内稲荷塚古墳
25. 長岡京跡宮跡第545・549次
26. 長岡京跡宮第552次
27. 長岡京跡左京第673次
28. 宇治市街遺跡第35・36・40次
29. 宇治市街遺跡第39次
30. 久津川車塚古墳
31. 芝山古墳群Ⅰ支群10号墳
32. 天理山３号墳
33. 墓の平１号墳
34. 山城国分寺跡
35. 加茂塚穴古墳

KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

「発掘された京都の歴史 2026」展示図録

発行日　令和8年8月8日

編集・発行　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3　TEL.075-933-3877　Fax.075-922-1189
ホームページアドレス　https://www.kyotofu-maibun.or.jp

2,500

HP　FB　X